

令和 6 年度 改善方策実行結果報告書

世田谷区立千歳小学校

学校長 石川 淳

教務主幹 坪木 有大

1. 探究的な学びの推進に関する改善結果

前年度においては、児童が「自ら課題を見付け、解決していく学習が楽しい」と感じる割合の向上を課題とし、80%以上の肯定的回答を目指す数値目標を掲げて取り組みを進めました。今年度はこの方針に基づき、校内研究では、全学年で共通して「せたがや探究的な学び」の授業構造に則った授業改善を実施しました。

導入場面での「問い」を引き出す工夫、学びの見通しを立てさせる教材構成、また振り返りの充実を通じて学びの意味を自覚させる授業デザインが行われました。

2. かかわり合いを通じた自己肯定感・他者理解の育成

前年度からの継続的課題である「自分らしさと他者の良さの尊重」に関しては、たてわり活動や異学年交流の再開と拡充により、着実な改善が見られました。特に6年生がリーダーシップを発揮する場を意図的に設けることで、低学年との関わりにおいて自然な成長支援の機会が生まれました。

また、総合的な学習の時間を活用し、学年ごとのテーマを通じて、「自分ができることは何か」「社会にどう関われるか」を考える場が多く提供されました。その結果、「他者の良さを大事にしている」とする肯定的回答は87.1%と、目標には達しなかったものの昨年度より着実に前進しています。

日常的な成功体験の積み重ねや、児童一人ひとりのよさに目を向けた声かけ、道徳教育との連動、キャリアパスポートの活用など、今後も多角的に継続する必要があります。

3. 保護者・地域との連携の深化と見える化

前年度の課題として挙げた「保護者・地域への連携の見える化」に対し、今年度は出前授業やゲストティーチャーの活用、地域交流行事の拡充を通じて、体験的・実践的な学びを多くの学年で展開しました。児童が地域の大人と触れ合うことで、「社会とのつながり」「学びのリアルさ」を実感できる機会を増やしました。

一方で、「学び舎」連携に関する認知度や、中学校とのつながりに関する認識は依然として課題が残っており、実施している取り組みを児童・保護者へ意図的に伝える工夫が求めら

れます。

4. ICT 活用と学習の質の両立

ICT 活用については、児童側の意識や活用力は向上している一方、保護者側の評価は昨年度より低下する結果となりました。これには、保護者から見た「タブレットを使った授業の理解不足」や「家庭での使用の不安」が影響していると考えられます。

今年度は ICT 活用推進委員会を中心に「タブレット使用ルール」を基に、学校内での共通理解を図るとともに、家庭への周知も強化しました。また、授業中の活用場面や活用目的を丁寧に保護者へ説明することの重要性も再確認されました。